



十勝川治水100年
トークリレー ②

肥沃な地 洪水との闘い

民間の移民団「晩成社」を率いる依田勉三が「開墾のはじめは豚と一口鍋とつたい、明治16（1883）年に始まった十勝の開拓は、大雨のたびに氾濫を繰り返す十勝川の水との闘いでもありました。それに続く開拓者も、明治30年ごろまでは、多くが肥沃（ひよく）で良い収穫を得られる十勝川沿いの沖積地に入植したことから、十勝川の治水が悲願だったと考えられます。それから、開拓者のためまぬ努力により幾多の試練を乗り越えた後、農業の機械化とともに排水改良をはじめとする土地改良事業が実施され、河川や排水路等の整備が進んだことにより、湿地や原野が広大で肥沃な農地に生まれ変

十勝総合振興局長 芳賀是則氏



わり、現在では、我が国最大の畑作・酪農地域としての地位が揺るぎないものとなっています。

一方、十勝川の治水の歴史は、大正12（1923）年から始まり、特に戦後は整備が大きく進みましたが、それでもたびたび洪水が発生しました。記憶に新しいところでは、平成28（2016）年の連続

台風に伴う記録的な豪雨により河川が氾濫し、道路や水道、農地などに甚大な被害が生じています。

この災害では、国や道、市町村はもとより、さまざまな関係者が連携して昼夜を問わず復旧対応に取り組み、早期の復旧につながりました。また、こうした災害を未然に防止するため、道では、国と連

携して利別川や佐幌ダム等の河川整備を推進し、治水安全度の向上を図る取り組みを行っています。

今後とも、自然災害への備えは、十勝の基幹産業である農業への災害を防止・軽減する産業施策として、また、安全・安心な暮らしを守る地域施策として、ますます重要になることから、ハード・ソフト両面からなる防災・減災対策に取り組んでまいります。母なる大河「十勝川」が、今後とも人々の暮らしに潤いと安らぎを与える存在であり続けることを願っています。

◆ 十勝川の治水事業は今年、100周年の節目を迎えた。治水事業とかかわりのある関係者の思いや将来に向けたメッセージを紹介する。

（随時掲載）

十勝川治水100年記念事業

トークリレー



十勝総合振興局 局長
芳賀 是則 氏



十勝毎日新聞
令和5年2月8日 3面 掲載

